

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（5月定例会）会議録
開催日時	平成30年5月21日（月）14時00分から16時00分まで
開催場所	保谷庁舎3階第2会議室
出席者	委員：内田議長、木下副議長、岩崎委員、川原委員、沼本委員、 長谷川委員、服部委員、原委員、矢野（真）委員、矢野（尊）委員 事務局：堀主幹、奥住主事
議題	(1) 放課後子供教室事業について (2) その他
配布資料	—
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

●平成30年4月の定例会議の会議録について、一部修正後承認する。

(1) 放課後子供教室事業について

●事務局より、提言案文について報告及び今後の予定について説明。

- 委員：8ページ7行目3つ目の○中、「福祉（子育て支援部・児童青少年課）の児童青少年課は削除してよいと思う。
- 委員：引用した資料を記載しなければならないと思う。
- 委員：最終調整をする段階なので、客観的に見て、不明な点はないか改めて注意するべきである。引用を明確に記述し、丁寧に確認する必要がある。
- 委員：7ページ1段落目「それらを考慮して」という表現ではなく、いつの方向性なのかを記述すれば十分だと思う。
- 委員：7ページ②の統括コーディネーターと地域コーディネーターの部分は、国が地域学校協働本部を設置したときに提言していることである。西東京市では、これまで十分放課後子供教室を実施しているが、その体制の整備のために国の動きを踏まえて、市には統括コーディネーターを配置し、各学校に地域コーディネーターを配置するということが書けると良いと思う。西東京市は先行してやってきたが、国の動きに合わせて体制を整える、ということを入れられると良いと思う。
- 委員：西東京市の特徴として、公民館活動が活発で、人材が豊富にあるなども加えると良いと思う。
- 委員：この表現だと、コーディネーターにふさわしいのは元学校関係者しか当てはまらないのではないかと感じてしまうので、地域の人材も対象と分かる表現が好ましいと思う。
- 委員：管理者とコーディネーターの兼務は困難とヒアリングでも聞いている。将来に向け、理想を提示しておくことは大切だと思う。
- 委員：行政主導でコーディネーターとして配置をすることが第一歩だと思う。

- 委員：きちんと役割が明確になっている方が、他との調整等もしやすくなると思う。
- 委員：第3章前半部分を半分くらいにまとめられないか。「子どもたちを取り巻く社会状況を考えてみると、今後東京でも人口減少がはじまり、人工知能やロボットに代替され、女性の就労も増加し、今後は働き方も柔軟になり、退職年齢も延長されるなどの大きな変化が予測されている。」くらいに留め、それに対して教育の場面では、という流れで、新学習指導要領のことや社会教育では地域学校協働本部のことが議論されているなどと書いてはどうか。もしくは、小平市のようなコミュニティスクールについて書くならば、「地域学校協働本部の一部としてコミュニティスクールという、地域が参画するような構想も出されている。」程度にまとめてはどうか。「西東京市はこれらの社会の変化やの国や東京都の動きを考慮し、西東京市について検討する。西東京市では、これまで放課後子供教室事業を実施してきているが、さまざまな課題もある。実は、西東京市は放課後の居場所をいち早く整備した。ただ、人材が非常に限られていた。一方で、西東京市は公民館活動など、非常に地域で学習や活躍している人材が豊富な、優れた地域でもある。体制を整備すると同時に、地域の中で人材を広く適切に活用する方法が必要である。」という流れで整えてはどうか。内容については良いと思うので、西東京市の社会教育活動で優れている部分を示して、今後はその体制整備が必要であるため、国が示すように整備すれば、今ある課題も解決されるだろうということが書けると良いのではないか。ただ、西東京市のことをもう少し前面に出せると良いと思う。
- 委員：2章までは西東京市の現状と課題について書いている。しかし、課題もあるので、第3章で当面取り組むべきことと将来像について書いている。発展的に実施をしていくためにも、まずはきちんとコーディネーターを配置することが好ましいという方向だったと思う。
- 委員：人材は豊富にあるので、あとは体制整備をするという流れは良いと思う。
- 委員：関わる人間が変わっても、続けられるような体制作りが必要だと思う。
- 委員：とにかく大きな動きとして、地域はこれまで学校の協力者としての側面が強かったが、今後は、自分たちが暮らす地域をもう少し主体的に捉え、自分たちのまちをどうしたいのか、子どもたちにどうあってほしいかの視点を持って、行動していくことが地域学校協働活動であると思うので、学校側の地域との関わり方も変わっていくような大きな変化が伴うものだと思う。未来への見通しを持って体制を整えていこうとなるように書けると良いのではないか。
- 委員：ヒアリングで意見を集めたが、回答側からすると、提言には出した意見についての回答を期待していると思う。一番期待されているのは「今後のあり方」についての記述だと思う。もっと具体的な表現にしなければならないと思う。あまりきれいに整えすぎるのも良くないのではないか。コーディネーターのことや学校との連携などをどうしていくのかの部分の厚くした方が良いと思う。学校と放課後子供教室が交わるような方策を入れると、ヒアリングの結果を踏まえて検討していることが分かると思う。
- 委員：提言内容を整理していく中で、内容が重複しないよう調整をしている。
- 委員：重複は強調することなので、あっても良いと思う。
- 委員：第3章に書きたいことは、今関わっている人達がすぐに恩恵を受けるようなものではなく、さらに先を見据えた内容ではないのか。西東京市におけるコーディネーターはどのようなものなのかなどの具体的な中身については、提言を出した後の議論になると思う。
- 委員：最後に「東京では2025年の人口減少が予測され（裏づけが必要）、子育て支援や放課後子供教室事業の体制整備は西東京市の若い世代の定住を促し、人口維持のひとつの方策であることに鑑み、行政の将来構想において真摯に検討されることを願いたい」というような文章を置いて、教育委員会よりも上に投げられるように余地を残しておく、この構想が実現しやすいかと思う。いわゆる人口獲得戦略として子育て支援と放課後子供教室は各市でも取組が進んでいる。教育委員会では、良い教育をという視点で言ってい

- るが、違う観点からも提言した方が、行政側も動きやすいのではないか。
- 委員：先日、学校が福祉施設化しているということを知って驚いた。保護者が就労している家庭を考慮し、夜間に子どもを預かるなどしているところもあるそうだ。放課後子供教室はこれらと切り離して進めないと破綻するだろう。
 - 委員：今後はある程度有償化していかないと、成り立たないと思う。社会全体でも働き方についてよく話されているが、今の時代は女性の就労も増えているので、人々のボランティア任せでは難しいと思う。
 - 委員：確かに教育委員会に留まる話ではないと思う。
 - 議長：本日出た意見を踏まえ、最終調整をする。6月の定例会では提言の最終確認をしたい。後日教育長へ提出するという流れにしたいと思う。
 - 議長：提言につける資料について事務局より提案があったが、意見はあるか。
 - 全委員：(異議なし)
 - 委員：女性の就労により、子どもを預けたい人は増えているが、その受け皿になる人が不足している現状がある。
 - 委員：学童クラブと一体化している自治体もある。ゆくゆくは一体化されていくのではと思う。
 - 委員：学童クラブの代替としての機能はない。そもそも毎日実施しているわけではないし、実施時間も短い。
 - 委員：最近では、幼稚園も夜まで預かったりしているので、そうしている人たちがそのまま学童を希望する。ニーズはやはり学童にあるということを忘れてはいけないと思う。
 - 委員：学童クラブで一時的な保育をしてくれるなどの制度があれば、利用する人も多いと思うし、親も安心できる。また、子どもの安全も守られるので良いと思う。

(2) その他

※東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4ブロック研修会について

●事務局より説明。

日時：平成30年10月6日(土)午後1時から

会場：柳泉園組合(東久留米市下里四丁目3-10)

○事務局：出欠については5月中に事務局までお願いします。

○議長：それでは以上で、社会教育委員の会議5月定例会を終了する。

※次回会議 平成30年6月18日(月)午後2時から